

ニュース：「臨床検査支援協会(ASCL)」を設立

リタイアされた人材を活用し、臨床検査の普及啓発

特定非営利活動法人臨床検査支援協会(ASCL、渡邊清明理事長)がこのほど発足した。検査業界に携わった方々の交流の場として、会員相互の連携を深め、検査技術や情報提供などの支援を行う。渡邊理事長は、「今後臨床検査はさらなる発展が望まれ、臨床検査技師にとって今まで以上に人材の確保と質の向上が求められる」と述べ、臨床検査関連の人材として、特に退職された臨床検査技師の活躍を見込んで協会を設立した。

ASCLでは、①各種団体等が実施する臨床検査技能試験の研修や試験実施の支援、②検体検査の精度向上、③学術講演会の開催や企画立案、講師の派遣、④臨床検査や臨床検査技師の社会的認知向上などを行う委員会を立ち上げ、これらを目標に事業を進める。

ASCLの前身は、「山陽本線の会」。毎年、日本臨床検査医学会学術集会で、例えば「男と女の臨床検査」などをテーマにランチョンセミナーが行われていた。ASCLは、このメンバーが中心となってNPO法人を設立し、リタイアされた人材などを活用し、上記事業を推進するための組織を立ち上げた。

会員は、正会員と賛助会員に分かれる。正会員は、主に山陽本線の会の方々がメンバーとなり、会の運営に当たる。賛助会員は、企業と個人に分かれ、個人がリタイアされた際には、正会員となり会の運営に当たることもできる。

渡邊理事長は、「定年以降は定職につかず、家にいらっしゃる方々が多いと聞いている。元気な方も多く、このような方々に会員になっていただきたい」と述べ、医師や臨床検査技師のみならず、メーカー、検査センターなど臨床検査業界に携わっている(いた)方々を対象に協会の運営に当たる方針。



左から石橋理事、渡邊理事長、佐久間氏

一方、医療機関などでは、検査技術の向上を望む声が高く、特に今年は、医療法等の改正が12月1日に施行されることから、検査室では精度管理や検査関連業務の書類の整備など法改正対応に向けた関心が高まっている。石橋みどり理事は、「臨床検査業界のネットワークを広げること、これらのニーズに対応していきたい」と述べた。

事務局の佐久間洋子氏によると、賛助会員は、9月15日現在、企業が42社、正会員、賛助会員を含めた会員は41人という。今後も会員の募集を続ける。

ASCL事務局の住所は、

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-14

神楽座Nビル

電話番号：03-3267-0665

E-mail：info@ascl.or.jp

HP：https://www.ascl.or.jp

医療と検査機器試薬 10月号
(発行宇宙堂八木書店)

ニュース：臨床検査支援協会がスタート

臨床検査の普及啓発と質の向上を支援

臨床検査支援協会(ASCL)は11月17日、東京都内で開催中の第65回日本臨床検査医学会学術集会でランチョンセミナーを開いた。ASCLの立ち上げと活動方針について理事長の渡邊清明氏が講演し、さらに東京大学医学部附属病院検査部の安川恵子氏は、「新バイオマーカー『酸化型アルブミンの測定法と臨床的意義』」について最新の情報を紹介した。総合司会は、新東京病院臨床検査室部長の石橋みどり氏、ASCL副理事長の高加國夫氏、高橋伯夫氏が、それぞれ渡邊氏、安川氏の司会を務めた。

○国民の健康と医療の発展に貢献

ASCLの目的について渡邊氏は、「広く一般市民を対象に臨床検査に携わる人材の確保と質の向上を支援する事業、さらに臨床検査の普及啓発に関する事業等を行い、臨床検査を通して国民の健康と医療の発展に貢献する」と紹介した。

渡邊氏はASCL設立の背景として、「臨床検査は発展の一途をたどっているものの、これを支えるインフラが必ずしも確固たるものになっていない」と述べた。さらに「臨床検査関連の人材、特に臨床検査に携わってきた医師、退職された臨床検査技師、検査関連企業に勤める方々は、臨床検査の知識や技術があるにも関わらず、十分に活用が行われていない」ことを挙げ、今後、臨床検査に携わる人材の技術の向上などを支える横断的なインフラ組織が必要と考え、ASCLを設立したという。

○「山陽本線の会」が起点

ASCLの歴史は2005年、中国地方出身の臨床検査関係者が懇親する会として「山陽本線の会」が発足。その後、06年に「明日の臨床検査を考える会」に改称し、07年から毎年、日本臨床検査医学会学術集会ランチョンセミナーで、臨床検査に関する最新情報を提供してきたという。



理事長の渡邊清明氏



高加國夫氏



高橋伯夫氏



安川恵子氏

その後、17年に会の有志から臨床検査全般を支援する組織を立ち上げたいという提案が挙がり、法人設立に向けて動き出した。その後、18年1月に東京都から特定非営利活動(NPO)法人の認証を取得、2月に正式に設立となった。

ASCLの事業内容として、①臨床検査技能の向上を支援する事業、②検体検査の精度の確保に関する事業、③学術講演会を開催する事業、

④(企業や団体などが実施する)講演会や研修会の開催を支援する事業、⑤臨床検査や臨床検査技師の社会的認知向上のための普及啓発事業—を挙げた。

①の例として、各種団体等が実施する臨床検査技能試験の研修や実施支援などを行う。支援内容は、依頼があった団体の意向に沿って決める。②は、今年12月から医療法等の一部が改正されるが、医療機関の検査室などに対して法改正に向けた支援を行う。④は、特に地方などに、講師などの人材を派遣する。

○人材確保と質の向上を図る

渡邊氏は、これらの活動を通じて、臨床検査を担う多くの人材確保と質の向上を支援していきたいと述べ、さらに事業を拡大することも可能との考えを示した。

ASCLの役員は、渡邊氏が理事長を務めるほか、副理事長に高橋伯夫氏、高加國夫氏、理事に小川眞史氏、石橋みどり氏、今哲明氏、監事に寺本哲也氏、事務局長に佐久間洋子氏が務め、事業の企画運営にあたる。

会員は、正会員と賛助会員に分かれる。正会員は、主に山陽本線の会のメンバーがあたる。賛助会員は、個人と企業団体に分かれ、個人は18人、企業団体数は43となった。

会員の特典については、臨床検査に関する情報提供が受けられるほか、ASCLが主催の講演会やイベントなど事業活動に優先的に参加できる。特に企業や団体では、人材育成や教育研修などのアドバイスが受けられるほか、会員企業・団体が企画する学術講演会などに講師派遣紹介や助言などが受けられる。

年会費は、個人が3,000円、企業団体は1口5万円。入会は、ホームページ(<https://www.ascl.or.jp/>)から、賛助会員募集趣意書入手し申し込む。

○酸化型アルブミンの測定法を開発

安川氏は、酸化型アルブミンの簡便、迅速で

高精度な測定法を開発した経緯を示すとともに、酸化型アルブミンの病態との関係を明らかにした。その結果、糖尿病、冠動脈疾患、肝疾患などについて、病態や病態の進展に反映することが分かり、新しい酸化ストレスマーカーとなる可能性を示した。

酸化ストレスについて、がんや生活習慣病、アルツハイマー病など、多くの疾患、身体機能の低下、老化などと関連することが報告されている。しかし、実臨床において応用できる良い指標がなかった。

アルブミンには、酸化型と還元型があるが、安川氏は、酸化型アルブミンの迅速で、精度に優れた実用的な測定法を開発するとともに、検体を安定化する試薬構成を見つけ、安定化剤をあらかじめ採血管に入れることで、室温で25時間安定させることが可能になったと報告した。

血清、血漿をHPLC装置（高速クロマトグラフィ）で測定し、酸化型アルブミンと還元型アルブミンに分離して評価を行った。これにより各病態やその進展との関連性が評価でき、酸化ストレスの指標となりうることが分かったという。糖尿病性合併症の進展や冠動脈疾患とは強い関連があり、これらの良い指標となる可能性を明らかにした。

安川氏は、今後、酸化型アルブミンと酸化ストレス、病態、病態の進展との関係をさらに明らかにし、糖尿病性合併症等における酸化ストレスを抑制する生活習慣、薬剤などの研究開発につなげていく、との抱負を述べた。

ラボ・サービス編集部
小林 利康